

## 第3回 Digital Innovation City 協議会 議事録

- 日時：2021年11月30日（火）15時～16時30分
- 場所：テレコムセンタービル東棟 20F 会議室 2
- 参加者：構成員 8 者各委員（1 者代理）
  
- 議事：

### <今年度の進捗の報告>

- 協議会運営事務局より、今年度の進捗について報告
  - ・ 2022年1月～3月の間に5つの実証実験を予定
  - ・ 8月にライブ・エンタメ PT を開催。「臨海副都心におけるライブ・エンタメのテーマに係る課題」について検討
  - ・ 9月にデータプラットフォーム構築検討会を開催。「データプラットフォーム構築に向けた考え方」について検討
  - ・ 10月末から実証実験の公募を行い、審査会を開催済み。上位評価の2件を選定し、連携するイベント事業者との調整を行ったうえで正式決定
  - ・ 10月にモビリティ・物流 PT を開催。「臨海副都心におけるモビリティ・物流のテーマに係る課題」について検討

### <DIC の今後の取り組みの考え方>

- 協議会運営事務局より、DIC 協議会として注力していくべき取り組みについて説明
  - ・ スマートシティの先行事例の潮流を捉え検討が必要。代表的なスマートシティでは、地域の課題解決・ユースケース作りから着手し、実績を積み重ねており、地域のステークホルダーも主体的に関与
  - ・ 各スマートシティでは実行計画やビジョンの策定といった具体的なアウトプットが公表されており、具体的な取り組みとしてデータプラットフォームの構築検討が中核
  - ・ 先行事例を踏まえて論点①「DIC における優先課題、ユースケースは何か」と、②「誰が・いつ・どこで・どのように作るか」を具体的に検討していくことが必要
  
- 主な意見（論点①「DIC における優先課題、ユースケースは何か」について）

#### <防災のテーマについて>

- ・ 地域に役立てる意味では防災というテーマはよいと考えるが、有事の際に通信過多でサーバーが機能しなくなる懸念もあるため、通信方式等の技術的な検討が必要
- ・ 防災のデータ活用について、当該エリアは自治体が複数存在し、自治体ごとの取り組みも異なる中で、データを取得し、発信する主体をどこが担うのか、誰に向けて発信するか、についても検討が必要
- ・ 区によっては、災害時の道路の使用可否をデータとして持っている場合もあるため、このような情報を有効活用できるようご協力いただけるとよいものになる
- ・ 臨海副都心エリアでは住民票を持たない来訪者が年間 5600 万人存在。そのような自治体の情報取得の

対象になっていない人々の情報をどのように取得していくかが重要

- ・ 有事の際を見据えると公共交通機関の乗降データや橋の通行データ等の人口データの取得が必要

#### <その他全般について>

- ・ 施設への誘導策を検討するために、台場・青海地区に限らず、その手前の有明・月島・銀座における人口データ、人流データを踏まえた検討が必要。これらの情報から臨海副都心域内の回遊性への効果も見える
- ・ 国際展示場等の施設の人出の情報を把握することで、追加の施策も見えるのではないかと
- ・ コロナ後の人出についても、どの段階で、どのエリアから回復していくのか、見える化へのニーズがある
- ・ マーケティングを行ううえではターゲットの属性情報が重要になる
- ・ 駐車場の満空のデータだけでなく、駐車場の待ち時間や駐車場難民のデータも取得できれば今後の駐車場計画や域内のモビリティ計画等の施策に有効的。同時に域内 CO2 排出量削減にも繋がる

#### ○ 主な意見（論点②「誰が・いつ・どこで・どのように作るか」について）

##### <防災のテーマについて>

- ・ 防災というテーマをとっても臨海副都心では域内の滞留者発生が懸念されるが、災害時に他エリアから空飛ぶ自動車や自動運転船等の技術を活用して課題解決を目指すような実証実験も有益
- ・ 臨海副都心の施設キャパシティーや先端技術を荒川決壊等の広域災害時に活用することまで視野に入れて検討することも有益

##### <その他全般について>

- ・ 西新宿の先進的な取り組みにおいて臨海エリアとマッチする点を抽出して反映していくべき
- ・ 先行事例の後追いをするのではなく、臨海副都心ならではの検討をする方が有益
- ・ 解決すべき課題や実装したい技術をブレイクダウンしていき、そのために必要なデータを収集する目的で実証実験を進めるべき。自動運転を例にとっても、羽田や月島でサービス化されている中で、臨海副都心では、何を実現したくて、何を目的に行うのかについて細分化し KPI を設定していくことでより有益なものになる
- ・ データを使うことは難しいことを実感している。サービス提供されているものを課題に対してどう使っていくのかの検討も必要
- ・ エリア内の各スポット間の移動に時間が要することに問題意識がある。そのため、回遊性の向上に対して次年度以降に具体的な目標を定めることが必要であると考えている
- ・ PoC をビジネスやサービスとして継続していくためには、「誰が？」、「どのように？」を整理する必要がある
- ・ 発散と収束のバランスは難しいが、より収束に比重を置くと課題や方向性が可視化できるのではないかと

#### <今後のスケジュールについて>

#### ○ 協議会運営事務局より、今後のスケジュールを説明

- ・ 今後、5 件の実証実験等を進めていく。引き続き皆さまにご協力を頂きたい
- ・ 本日頂いたご意見を各 PT で具体的に検討し、年度末に向けてテーマ・課題・目指す姿・3 か年計画・KPI 等を作成していく
- ・ 検討会、各 PT については近々第 2 回を開催させて頂きたい
- ・ 第 4 回協議会は 2 月下旬～3 月上旬に開催し、実証実験等の結果を踏まえて次年度以降の具体的な

検討を行う

以上